



# 地域における新しい未来づくりを考える

ArtKitchen 代表 上野 志帆 氏

創造力と感性でこどもの未来を  
デザインするArtKitchenの  
上野さんに伺いました



吉田地区に引っ越してきて早9年目になろうとしています。東京の下町で育ってきた私にとって移住当初、環境の違いにホームシックになってしまいました。現在ではすっかり慣れて都会と地方の良いところを両方感じることが出来ます。こどもを通じて地域独特の習わしを知ることができたのは特に良かったことの一つです。十五夜と十三夜の夕方、今年収穫した稲の藁を使って各家庭で棒状のものを作り、こどもたちが歌を歌いながら藁を地面に叩きつけ、地域の家々を一軒一軒周りながらお小遣いをいただく藁でっぼう。日本版のハロウィンのようなこの伝統は、収穫や自然への感謝を形にした祖先の人々の思いが脈々と受け継がれてきた風習であり、地域独特の文化を体験できたことは子供にとって貴重な財産になりました。

一方、現在、小中一貫の義務教育学校として吉田東・吉田西・薬師寺の3校が下野市南河内小中学校として統合され、各校が閉校となります。住民の拠り所として存在してきた小学校がなくなることで、そして少子高齢化の進む吉田地区地域に与える影響を考えると、何とかしなければならないという思いは強くなるばかりです。今後小学校をどのように活用していくのかを吉田地区市民活動検討委員の一員として吉田地区の皆さんのお声やアンケートでお聞きし、みんなで検討しています。この地域の課題を発見し、1つ1つ問題を解決するデザイン思考と0から創造するクリエイティブな思考を用いることによって新しい吉田地区が形創られ、その場所で色々な方が繋がり、新しい何かが生まれる豊かな場所になることが出来るのではないかと考えています。

私自身アートに携わる日々の中で、アートやデザインは特別なものではなく、もっと生活に身近で様々なところに存在し、人を豊かに幸せにするものだと感じ、地域においてのデザインやアートの可能性を考えています。

## らいさまNEWS

### ニューズらいさまがアジアブックマーケットに出展されました

2021年(令和3年)12月に大阪市で開催されたキタカガヤフリー2021オースタム&アジアブックマーケットに参加した千十一編集室 / EDIT LOCAL LABORATORY (第13号に登場した影山裕樹さんの団体です) のブースでらいさまを出展していただきました。アジアブックマーケットは国内のみならず海外も含めた様々な出版物が並びイベントであり、来場した多くの人にらいさまというローカルメディアをPRすることができました。



写真) EDIT LOCAL LABORATORY



### 編集後記



少子化にともない全国的に廃校が増えています。校舎は、そのまま残されているものがほとんどで、その有効活用が求められています。今回は廃校後3年目の国分寺西小区と、今年度廃校予定の吉田西小区の関係者に取材しました。小学校は、地域の方にとっての心のより所だったようで、廃校のさびしさはひとしおのようです。国分寺西小区では2020年に「たんぼぼ館」を開館させ、利用者が集まりやすい工夫を色々としています。吉田西小区では、コロナ禍以前までは川井さんの所有地で毎年どんど焼きを行い、地域のつながりを絶やさないようにしていました。このように地域コミュニティは地域の人たちの努力で成り立っています。「共同体意識」を高めることで、土地に愛着を持ち、安心安全な場が作られていくのだと感じました。(影山恵子)

#### 【表紙】吉田西小地区どんど焼きのやぐら

木の枝などでやぐらを組み正月飾りやお守りなどを焼いてもらう行事です。